

【 復活のトロパリ 第3調 】

てんにあるものたのしめよ、ちにあるもの  
 天 在 者 樂 地 在 者  
 よろこべよ、しゅはそのひぢのちからをあら  
 悦 主 其 臂 力 顯  
 わして、しをもってしをほろぼし、ふ復  
 死 以 死 滅  
 くかつのはじめとなあり、われらをぢごく  
 活 首 我 等 地 獄  
 のはらよりすくうい、せかいにおおいな  
 腹 救 世 界 大  
 るあわれみをたまいたればなり。

【 審判の主日のコンダク 第1調 】

こおえいはちちとことせいしんにきす、  
 光 榮 父 子 聖 神 歸  
 いまもいつもよよに、アミン。  
 今 何 時 世 世  
 かあみよ、なんぢがこうえいをもって  
 神 爾 光 榮 以  
 ちにきたりて、ばんゆうがおののき、ひの  
 地 來 萬 有 戦 の 火

かわがしんばんぎのまえにひき、きろくがひらか  
 河 審判座 前 引 記録 披  
 れ、ひそかなることがあらわれんとき、い  
 隠 事 顯 時 至  
 たありてぎなるしんぱあんしゃよ、われをきえ  
 義 審判 者 我 滅  
 ざるひよりのがれしめて、われになんぢの  
 火 脱 我 爾  
 みぎにたつをえしめたまえ。  
 右 立 得 給

【 聖三の歌 】

代禱) <sup>しゅ</sup>主よ、<sup>けいけん</sup>敬虔なる<sup>もの</sup>者を<sup>すく</sup>救い、<sup>およ</sup>及び<sup>われら</sup>我等に<sup>き</sup>聴き<sup>たま</sup>給え、

しゅよ、けいけんなるものをすくい、およびわれ  
 主 敬 虔 者 救 及 我  
 らにききたまえ。  
 等 聴 給

代禱) <sup>よよ</sup>世世に、

ア ミ ン。

せいなるかみ、せいなるゆうき、せいなる  
 聖 神 聖 勇 毅 聖

じょうせいのもものよ、われらをあわれめ  
 常生者我等を憐

よ。せいなるかみ、せいなるゆうき、せい  
 聖なる神、聖なる勇毅、聖

なるじょうせいのもものよ、われらをあわれ  
 常生者我等を憐

めよ。せいなるかみ、せいなるゆうき、  
 聖なる神、聖なる勇毅

せいなるじょうせいのもものよ、われらをあわ  
 聖常生者我等を憐

れめよ。こうえいはちちとこせいしん  
 光栄父と子、聖神

にきす、いまもいつもよよに、アミン。  
 歸、今何時世世に、アミン。

せいなるじょうせいのもものよ、われらをあわ  
 聖常生者我等を憐

れめよ。せいなるかみ、せいなるゆう  
 聖なる神、聖なる勇

き、せいなるじょうせいのもものよ、われらを  
 毅、聖常生者我等を

あわれめよ。  
 憐れめよ。

【 提綱（プロキメン） 審判の主日の 第3調 】

代禱<sup>えいち</sup> 睿智、

誦經) プロキメン、<sup>わ しゅ おおい</sup> 吾が主は大なり、<sup>そのちから またおおい</sup> 其力も亦大なり、<sup>そのちえ はか がた</sup> 其智慧は測り難し、

わがしゅはおおいなり、そのちからもまたおお  
吾主大 其力亦大  
いなり、そのちえははかりがたあ  
其 智慧 測 難  
し。

誦經) <sup>しゅ ほ あ</sup> 主を讃め揚げよ、<sup>けだしわれら かみ うた ぜん</sup> 蓋我等の神に歌うは善なり、<sup>こ たの こと</sup> 是れ楽しき事なり、

わがしゅはおおいなり、そのちからもまたおお  
吾主大 其力亦大  
いなり、そのちえははかりがたあ  
其 智慧 測 難  
し。

誦經) <sup>わ しゅ おおい</sup> 吾が主は大なり、<sup>そのちから またおおい</sup> 其力も亦大なり、

そのちえははかりがたあし。  
其 智慧 測 難

【 使徒經（アポストロス） 140 端 コリント前書 8 章 8 節～9 章 2 節 】

代禱<sup>えいち</sup> 睿智、

誦經) <sup>せいしと</sup> 聖使徒パヴェルがコリント人に達する前書<sup>じん たつ ぜんしょ よみ</sup>の讀、

代禱) 謹みて聴くべし、

誦經) 兄弟よ、食物は我等を神の前に立たしめず、蓋我等は食うとも、得る所なく、食

わずとも、失う所なし。然れども慎め、恐らくは此の爾等の自由は弱き者の蹟

と爲らん。蓋若し人、爾知識ある者が、偶像の廟に坐して食うを見れば、彼弱き者の

良心は、彼にも偶像に獻げし物を食うを勧めざらんや。然らば爾の知識に因りて、

弱き兄弟ハリストスの之が爲に死せし所の者は亡びん。爾等此くの如く兄弟に對

して罪を獲、彼等の弱き良心を傷つけて、ハリストスに對して罪を獲るなり。故に若し

食物我が兄弟を誘わば、我長く肉を食わざらん、我が兄弟を誘わざらん爲なり。

我使徒たるに非ずや。我自主たるに非ずや。我イイススハリストス我等の主を見しに非ず

や。爾等は主に於て我の工たるに非ずや。設い我他人の爲に使徒たらずとも、爾等の

爲には是なり、蓋爾等は主に於て我の使徒職の印なり。

\*\*\*\*\*

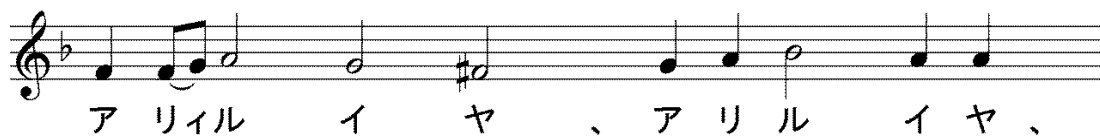
(比較用 口語訳) 兄弟たちよ、食物は、わたしたちを神に導くものではない。食べなくても損はないし、食べても益にはならない。しかし、あなたがたのこの自由が、弱い者たちのつまずきにならないように、気をつけなさい。なぜなら、ある人が、知識のあるあなたが偶像の宮で食事をしているのを見た場合、その人の良心が弱いため、それに「教育されて」、偶像への供え物を食べるようにならないだろうか。するとその弱い人は、あなたの知識によって滅びることになる。この弱い兄弟のためにも、キリストは死なれたのである。このようにあなたがたが、兄弟たちに対して罪を犯し、その弱い良心を痛めるのは、キリストに対して罪を犯すことなのである。だから、もし食物がわたしの兄弟をつまずかせるなら、兄弟をつまずかせないために、わたしは永久に、断じて肉を食べることはしない。わたしは自由な者ではないか。使徒ではないか。わたしたちの主イエスを見たではないか。あなたがたは、主にあるわたしの働きの実ではないか。わたしは、ほかの人に対しては使徒でないとしても、あなたがたには使徒である。あなたがたが主にあることは、わたしの使徒職の印なのである。

\*\*\*\*\*

【 アリルイヤ 審判の日の 第8調 】

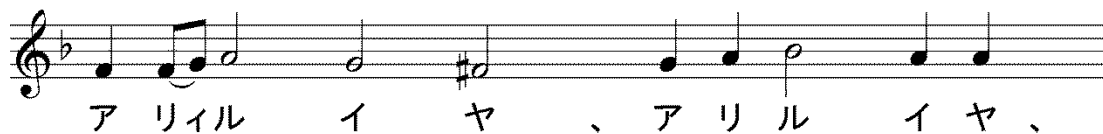
代禱) 睿智、

誦經) アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、

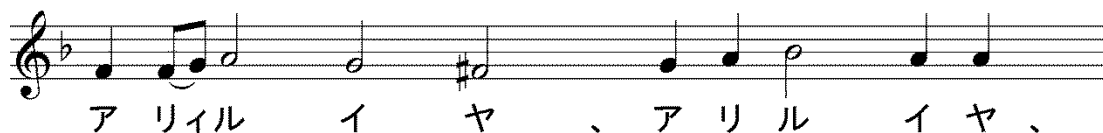




誦經) 來<sup>きた</sup>りて主<sup>しゅ</sup>に歌<sup>うた</sup>い、神<sup>かみ</sup>我<sup>わ</sup>が救<sup>すくい</sup>の防<sup>かた</sup>固<sup>め</sup>に呼<sup>よ</sup>ばん、



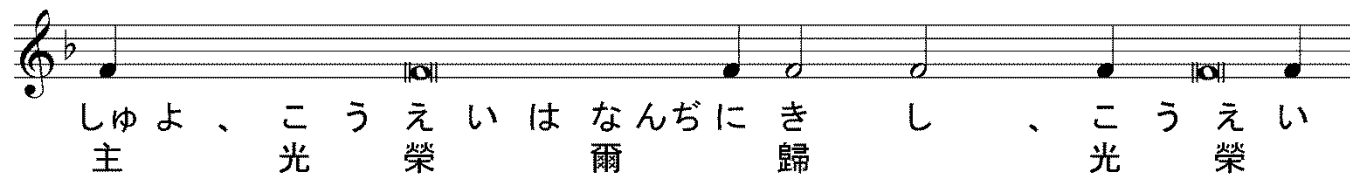
誦經) 讚<sup>さん</sup>揚<sup>よう</sup>を以<sup>もつ</sup>て其<sup>その</sup>顔<sup>かん</sup>の<sup>ば</sup>前<sup>せ</sup>に進<sup>ま</sup>え、歌<sup>うた</sup>を以<sup>もつ</sup>て彼<sup>かれ</sup>に呼<sup>よ</sup>ばん、



【 福音經 (エヴァンゲリオン) マトフェイ福音書 106 端 25 章 31~46 節 】

代禱) 睿<sup>えい</sup>智<sup>ち</sup>、

誦經) マトフェイ傳<sup>でん</sup>の聖<sup>せい</sup>福<sup>ふく</sup>音<sup>いん</sup>經<sup>けい</sup>の讀<sup>よ</sup>み、



代禱) 謹<sup>つつし</sup>みて聽<sup>き</sup>くべし、

誦經) 主<sup>しゅ</sup>曰<sup>い</sup>えり、人<sup>ひと</sup>の子<sup>こ</sup>は、其<sup>その</sup>光<sup>こう</sup>榮<sup>えい</sup>を以<sup>もつ</sup>て、諸<sup>もろ</sup>の聖<sup>せい</sup>なる天<sup>てん</sup>使<sup>し</sup>と偕<sup>とも</sup>に來<sup>きた</sup>らん時<sup>とき</sup>、其<sup>その</sup>光<sup>こう</sup>榮<sup>えい</sup>

の寶<sup>ほう</sup>座<sup>ざ</sup>に坐<sup>ま</sup>し、萬<sup>ばん</sup>民<sup>みん</sup>彼<sup>かれ</sup>の前<sup>まへ</sup>に集<sup>あつ</sup>ま<sup>ま</sup>り、而<sup>し</sup>て彼<sup>かれ</sup>は、牧<sup>ぼく</sup>者<sup>しゃ</sup>の綿<sup>ひつ</sup>羊<sup>じ</sup>を山<sup>やぎ</sup>羊<sup>やぎ</sup>より別<sup>わか</sup>つが如<sup>ごと</sup>く、

彼<sup>かれ</sup>等<sup>ら</sup>を相<sup>あい</sup>別<sup>わか</sup>ちて、綿<sup>ひつ</sup>羊<sup>じ</sup>を其<sup>その</sup>右<sup>みぎ</sup>に、山<sup>やぎ</sup>羊<sup>やぎ</sup>を其<sup>その</sup>左<sup>ひだり</sup>に置<sup>お</sup>かん。其<sup>その</sup>時<sup>とき</sup>王<sup>おう</sup>は右<sup>みぎ</sup>に在<sup>あ</sup>る者<sup>もの</sup>に謂<sup>い</sup>わ

わ ちち しゆくふく もの きた そうせいらいなんぢら ため そな くに つ  
 ん、我が父に 祝 福せられし者よ、来りて、創 世 以 來 爾 等 の 爲 に 備 え ら れ た る 國 を 嗣  
 げだしわ う とき なんぢらわれ く わ かわ とき われ の わ たび とき われ  
 を 宿らせ、我が 裸 なりし時、我に衣せ、我が病みし時、我を 顧 み、我が 獄 に在りし時、  
 われ きた とき ぎじんらかれ こた い しゅ われらいつなんぢ う み く  
 我に來れり。時に義人等彼に答えて曰わん、主よ、我等何時 爾 の 飢うるを見て、食わせ、  
 あるい かわ み の いつなんぢ たび み やど あるい はだか み  
 或 は 渴くを見て、飲ませしか。何時 爾 の 旅するを見て、宿らせ、或 は 裸 なるを見て、  
 き かつなんぢ や あるい ひとや あ み なんぢ きた おうかれら こた い  
 衣せしか。何時 爾 の 病み、或 は 獄 に在るを見て、爾 に來りしか。王 彼等に答えて曰わ  
 ん、我 誠 に 爾 等に語ぐ、 爾 等が之を我が此の至と 小 き 兄 弟 の 一人に 行 いしは、  
 すなわちわれ おこな そのときまたひだり あ もの い のろ もの われ はな あく  
 即 我に 行 いしなり。其 時 又 左 に在る者に謂わん、詛われし者よ、我を離れて、惡  
 まおよ そのつかいら ため そな えいえん ひ ゆ げだしわ う とき なんぢらわれ く  
 魔及び其 使 等の爲に備えられたる永 遠 の 火に往け。蓋 我が飢えし時、 爾 等我に食わ  
 せず、我が 渴きし時、我に飲ませず、我が旅せし時、我を宿らせず、我が 裸 なりし時、我  
 き わ や また ひとや あ とき われ かえり とき かれら こた い  
 に衣せず、我が病み、又は 獄 に在りし時、我を 顧 みざりき。時に彼等も答えて曰わん、  
 しゅ われらいつなんぢ う あるい かわ あるい たび あるい はだか あるい や あるい  
 主よ、我等何時 爾 の 飢え、或 は 渴き、或 は 旅し、或 は 裸 なる、或 は 病み、或  
 ひとや あ み なんぢ つか そのときかれら こた い われまこと なんぢら つ  
 は 獄 に在るを見て、 爾 に事えざりしか。其 時 彼等に答えて曰わん、我 誠 に 爾 等に語  
 なんぢら これ こ い ちいさ もの ひとり おこな すなわちわれ おこな  
 ぐ、 爾 等が之を此の至と 小 き者 の 一人に 行 わざりしは、 即 我に 行 わざりしなりと。  
 これら もの えいえん くるしみ ゆ ぎじんら えいえん いのち ゆ  
 此等の者は永 遠 の 苦 に往き、義人等は永 遠 の 生命に往かん。

\*\*\*\*\*

(比較用 口語訳) 主は言われた、人の子が栄光の中にすべての御使たちを従えて来るとき、彼はその  
 栄光の座につくであろう。そして、すべての国民をその前に集めて、羊飼が羊とやぎとを分けるように、  
 彼らをより分け、羊を右に、やぎを左におくであろう。そのとき、王は右にいる人々に言うであろう、  
 『わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御国を受  
 けつぎなさい。あなたがたは、わたしが空腹のときに食べさせ、かわいていたときに飲ませ、旅人であ  
 ったときに宿を貸し、裸であったときに着せ、病気のときに見舞い、獄にいたときに尋ねてくれたから  
 である』。そのとき、正しい者たちは答えて言うであろう、『主よ、いつ、わたしたちは、あなたが空  
 腹であるのを見て食物をめぐみ、かわいているのを見て飲ませましたか。いつあなたが旅人であるの  
 を見て宿を貸し、裸なのを見て着せましたか。また、いつあなたが病気をし、獄にいるのを見て、あなた  
 の所に参りましたか』。すると、王は答えて言うであろう、『あなたがたによく言うておく。わたしの  
 兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである』。それから、  
 左にいる人々にも言うであろう、『のろわれた者どもよ、わたしを離れて、悪魔とその使たちとのため

に用意されている永遠の火にはいってしまえ。あなたがたは、わたしが空腹のときに食べさせず、かわいていたときに飲ませず、旅人であったときに宿を貸さず、裸であったときに着せず、また病気の時や、獄にいたときに、わたしを尋ねてくれなかったからである』。そのとき、彼らもまた答えて言うであろう、『主よ、いつ、あなたが空腹であり、かわいておられ、旅人であり、裸であり、病気であり、獄におられたのを見て、わたしたちはお世話をしませんでしたか』。そのとき、彼は答えて言うであろう、『あなたがたによく言うておく。これらの最も小さい者のひとりにしなかったのは、すなわち、わたしにしなかったのである』。そして彼らは永遠の刑罰を受け、正しい者は永遠の生命に入るであろう」。

\*\*\*\*\*

しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい  
主 光 榮 爾 歸 光 榮

はなんぢにきす。  
爾 歸

※代式祈祷③へ